

ロート製薬の香港での活動および 大湾区への取り組みについて

2020年8月25日

**Rohto Advanced Research Hong Kong Limited
(ARHK)**

小林 英二

本日の発表内容

- 1.会社紹介**
- 2.再生医療への取り組み**
- 3.香港への進出**
- 4.今後の展開と大湾区**

ロート製薬の概要



- **社名** **ロート製薬株式会社**
- **本社** **大阪市生野区**
- **創業** **1899年2月22日**
- **資本金** **6,504 百万円**
- **売上高** **106,477 百万円 (単体)**
 188,327 百万円(連結)
- **従業員数** **1,529 (単体)**
 6,619 (連結)
- **主な事業内容** **化粧品、医薬品 (OTC)、機能性食品等の製造販売**

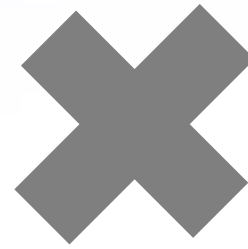
2020年3月現在

新しい領域への挑戦

研究開発

◆ 基礎研究

- 細胞培養技術
- 皮膚再生研究
- ゲノム研究
- バイオマーカー探索
- 分子生物学研究



医薬品製造

◆ 高品質医薬品製造

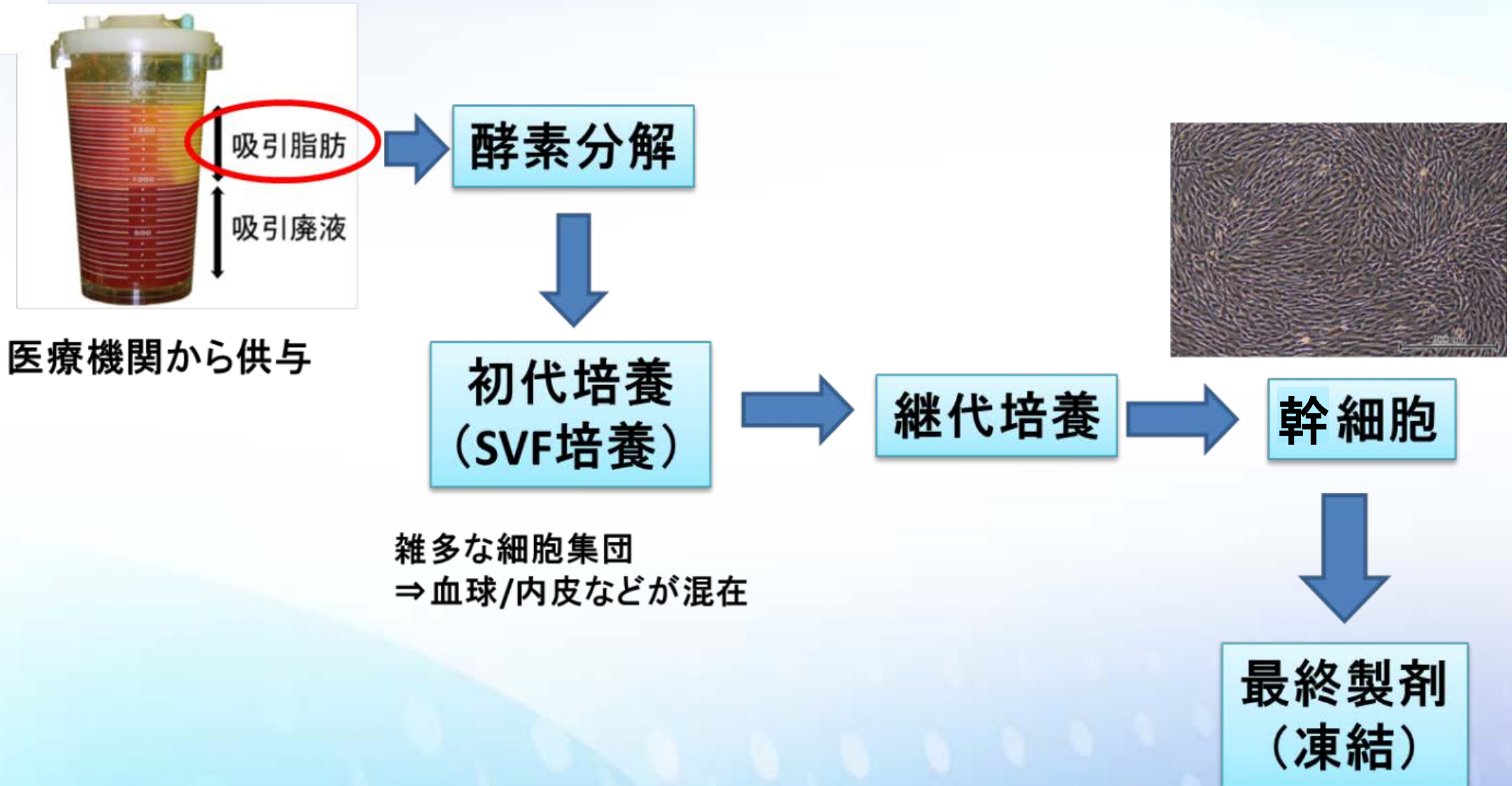
- GMP準拠
- 自動化ライン
- 無菌製剤



再生医療分野(幹細胞治療)に進出

幹細胞とは？

他家・脂肪由来間葉系幹細胞



日本で臨床開発を実施

2017.7.24

2020.6.23

東洋経済

ONLINE

8月5日(土)

週刊東洋経済 | 四季報オンラ

トップ ビジネス 政治・経済 マーケット キャリア・教育 ライフ 鉄道

2017年(平成29年)7月28日(金曜日)

化生

他家脂肪由来幹細胞製剤



ADRO01は、他家脂肪由来幹細胞製剤。脂肪組織から採取した細胞を、動物由来成分を含まない独自の無血清培地を用いて培養し、他家脂肪細胞による同移植であり、必要な患者に迅速に提供できる。静脈内投与が可能とされている。

ADRO01は、他家脂肪由来幹細胞製剤。脂肪組織から採取した細胞を、動物由来成分を含まない独自の無血清培地を用いて培養し、他家脂肪細胞による同移植であり、必要な患者に迅速に提供できる。静脈内投与が可能とされている。

ADRO01は、他家脂肪由来幹細胞製剤。脂肪組織から採取した細胞を、動物由来成分を含まない独自の無血清培地を用いて培養し、他家脂肪細胞による同移植であり、必要な患者に迅速に提供できる。静脈内投与が可能とされている。

ロート製

肝硬変対象に新潟大と

ロート製薬 再生医療の治験

ロート製薬は27日、新潟大の寺井崇二教授と共同で、肝硬変を対象にした再生医療の治験を早ければ9月に始める、と発表した。他人の脂肪組織から採取した細胞を使ったロートの製剤「ADR-001」を使い、同大の医学総合病院で治験を行う。

他人の細胞を使った肝硬変の治験は国内で初めて。ロートは幹細胞を使った再生医療の研究に力を入れており、治験結果を製剤開発に役立てる考えだ。ADR-001は、手術の際などに他人の体から取り出した「幹細胞」と呼ぶ特殊な細胞で肝硬

変を治す仕組み、移植した幹細胞から出た物質が、病変した肝臓の再生を促す。治験は点滴で製剤を投与する形で2018年12月まで実施。患者数は15人程度を想定している。同日会見したロートの山田邦雄会長は「これからは(一般用医薬品だけでなく)医療の分野でも貢献できる」と意気込みを強調した。ロートは20年度までに再生医療向け医薬品を投入する目標を掲げている。

改訂する薬
品を用い
る
山田邦
雄
会長
の
述
べ
は、再生
医療の
夢人への

COVID-19 重症肺炎に対する 他家間葉系幹細胞を用いた再生医療の企業治験について

新型コロナウイルスによる肺炎が重症化した場合、医療現場で使える治療薬の選択肢は現時点で米グリアド・サイエンス社の「レムデシビル」しかありません。中国でも投与した7

ロート製薬は23日、新しい再生医療の臨床試験「COVID-19 重症肺炎に対する他家間葉系幹細胞を用いた再生医療の企業治験」を8月にも始める。重症の肺炎患者を対象とする。重症の肺炎を投与する。まずは20

ロート製薬は23日、新しい再生医療の臨床試験「COVID-19 重症肺炎に対する他家間葉系幹細胞を用いた再生医療の企業治験」を8月にも始める。重症の肺炎患者を対象とする。重症の肺炎を投与する。まずは20

ロート製薬は23日、新しい再生医療の臨床試験「COVID-19 重症肺炎に対する他家間葉系幹細胞を用いた再生医療の企業治験」を8月にも始める。重症の肺炎患者を対象とする。重症の肺炎を投与する。まずは20

ロート製薬は23日、新しい再生医療の臨床試験「COVID-19 重症肺炎に対する他家間葉系幹細胞を用いた再生医療の企業治験」を8月にも始める。重症の肺炎患者を対象とする。重症の肺炎を投与する。まずは20

重症の治療手段多様に

コロナ治験 ロート製薬、研究活用

新型コロナウイルスによる肺炎が重症化した場合、医療現場で使える治療薬の選択肢は現時点で米グリアド・サイエンス社の「レムデシビル」しかありません。中国でも投与した7

コロナ再生医療へ治験

ロート製薬、8月にも開始

ロート製薬は23日、新しい再生医療の臨床試験「COVID-19 重症肺炎に対する他家間葉系幹細胞を用いた再生医療の企業治験」を8月にも始める。重症の肺炎患者を対象とする。重症の肺炎を投与する。まずは20

香港への進出

<進出までの経緯>

- 2018年12月 香港進出を決定
- 2019年1月 香港現地法人設立
- 2019年4月 ラボ着工開始
(香港サイエンスパーク)
- 2019年7月 駐在員赴任
- 2019年9月 開所式

開所式



<https://www.youtube.com/watch?v=rgqe8lpl6Xo>

<ミッション>

- 中国本土を見据えた海外の研究・開発拠点
- 再生医療（細胞培養・細胞治療）の研究・開発

なぜ香港に進出？

<香港を選択した理由>

- ① 英語が公用語（アジアでは限定的）
- ② 優秀な人材（アカデミアに世界中から優秀な頭脳が集結）
- ③ 地理的条件（中国大湾区に隣接）
- ④ 手厚いサポート（香港政府および香港サイエンスパーク）

JETROビジネス短信（2020.1.8）

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2020/01/536209cd31ea806d.html>

☆その他

- ・ 税制（法人税、付加価値税他）面での優遇
- ・ コモンローによる欧米式のマネジメントが可能

香港に進出して感じたこと

- 会社の設立、ビザの取得が短期間で可能
- 世界中から優秀な人材の採用が可能
- 中国大湾区を客観的に見る目
- 政府が先端的な研究を支援（大規模な助成金）
→ 米国、英国のトップ大学が香港にラボを新設
- 将来の発展性：深圳との境に巨大なサイエンスパーク建設
- 市場としての魅力には限界
- 高い物価（特に不動産、家賃）
- 英語の通用範囲が限定

 香港は大湾区への第一歩としては最適

大湾区 (the Greater Bay Area)



- 中国で最も開放的で経済活動が活発な地域
- 人口に比べてGDPの割合が高い

出処：袁民忠 2019.4.9 広東・香港・澳門大湾区シンポジウム 資料

<https://greaterbayarea-sympo.com/>

今後の展開

中国大湾区への進出を継続的に検討

- ・香港に出来ること、出来ないことの見極め
- ・中国大湾区の適切性の評価
- ・中国・諸外国の対応による情勢の不安定化



- 種々のシナリオ、それに基づく構想に合わせた将来図
- 複眼的な視点に基づく、現地での情報収集が判断の上で重要

ご静聴有難うございました！